

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.25
平成24年12月21日

みんなでお掃除がんばりました！

12月20日(木)、全校一斉に30分間の大掃除をしました。普段のそうじよりも15分長いので、窓を新聞紙できれいに拭いたり、出入り口のサッシの汚れを取り除いたり、どの区域を見ても、子ども達が、入念に心を込めて大掃除を行っている姿が目にとまりました。桜っ子の掃除に対する姿勢が、随分よくなってきたことを感じ取ることができました。大掃除後、子ども達は、やり終えた達成感と爽快感を肌で感じてくれたことと思います。



大掃除の意味について触れてみたいと思います。大掃除は、年末に、徹底的に行う掃除のことを言い、一年分の汚れを取り除き、新たな年に歳神(正月に家にやってくる神)を迎える準備をし、新年を新たな気持ちで始められるようにする意味があると言われていています。また、学校では、学期末などに一斉に行う掃除も大掃除と呼ばれています。

掃除用具の高機能化により、日頃から多くの場所を短時間で掃除できるようになったためか、昔のように家族総出の大掃除はあまり見られず、大掃除をしない家庭も増えてきました。これは常に掃除し、汚れをすぐにきれいにしておけば、大晦日前にあわてて掃除をする必要がないからです。また、暖かい頃の方が汚れが落ちやすいことと、外出してもどこも混雑すると思われることから、ゴールデンウィークに大掃除を行う家庭も多いそうです。

全校朝礼の話より(12/17)

みなさんは、イソップの「アリとキリギリス」というお話を知っていますか。知っている人も多いと思いますが、どんなお話を簡単に紹介しましょう。

暑い暑い夏の日。アリたちは冬に備えて一生懸命働いていました。そんなある日、一匹のキリギリスが草かげで歌を歌っています。キリギリスは、「アリさん、アリさん、何で君たちはこんな暑い日に汗水たらして働いているんだい?」と聞くと、アリは「冬に備えて食べ物を集めておくんだよ」「へえー、暑いんだから、もっと楽しめばいいのに!」と言って、歌を歌い続けました。

そして、秋が過ぎ、冬が来ました。つめたい雪のふる中をぼろぼろの服を着たキリギリスが「さむいよ～、おなかがすいたよ～」とおなかがすかせて、さまよっていました。

そうしていると、暖かそうな家を見つけました。アリたちの家です。キリギリスはノックをして、アリたちに聞きました。「寒くておなかがすいているので、なにか食べ物をいただけませんか。」と言うと、アリたちは「いいですよ。家の中に入って暖まってください。食べ物をあげますから。」と言ってキリギリスを暖かく迎えました。

という話しです。みなさんも知っていますよね。でも、このお話は日本以外では結末、最後のところがちがうのです。他の国では、アリたちが「夏に遊んでばかりいるから、そういうことになるのさ、しょうがないね」と言って何もあげずにドアを閉めてしまうのです。

みなさんは、家に入れてあげる日本の終わり方、家に入れない外国の終わり方、どちらのほうが好きですか。

私は日本の終わり方がいいなあと思います。人に優しくしてあげれば、いつかは自分にかえってきますからね。みなさんはどうですか。「情けは、人の為ならず」

クラスにもどったら、担任の先生と話しをしてみてくださいね。これで校長先生の話が終わります。

